

平成 27 年 9 月定例教育委員会会議録

1. 日 時 平成 27 年 9 月 17 日（木）午後 1 時 30 分～午後 2 時 45 分
2. 場 所 市立公民館・中央地区公民館 3 階 講座室 4
3. 出席者
委員長 中野 俊勝 委員長職務代理者 川岸 靖代 委員 谷口 馨
委員 野口 和江 教育長 樋口 利彦
4. 事務局出席者
教育総務部長 西川 照彦 学校教育部長 須賀 俊介 生涯学習部長 松阪 正登
学校管理課長 古谷 利雄 総務課長 大西 謙次 産業高校学務課長 山本 徹雄
産業高校教頭（全日制） 汐崎 可寿美 学校教育課長 松村 慎治
人権教育課長 阪本 美奈子 生涯学習課長 大和 昇
理事兼スポーツ振興課長 直 清司 郷土文化室長 小堀 頼子
図書館長 玉井 良治 総務課参事 高井 哲也 総務課参事 中野 忠一

開会 午後 1 時 30 分

前回会議録について承認された。本会議録署名者に川岸委員長職務代理者を指名した。
傍聴人 2 名。

○中野委員長

ただいまから、9 月定例教育委員会会議を開催します。

報告第 52 号 春木小学校への寄附について

○中野委員長

報告第 52 号 春木小学校への寄附について、事務局から説明をお願いします。

○古谷学校管理課長

報告第 52 号につきましては、春木小学校への寄附についてでございます。

寄附品名は、図書一式 68 冊、ボール 39 個で、換算額にしまして 150,834 円です。寄附の目的は、学校教育のためということで匿名の方から平成 27 年 7 月 15 日にご寄附いただきました

○中野委員長

寄附は非常に有り難いことで、寄附された方の主旨に沿って、読書活動やスポーツに活用していただくようお願いします。

報告第 53 号 産業高校市民公開講座「パソコン講座・エクセル入門」の実施について

○中野委員長

報告第 53 号 産業高校市民公開講座「パソコン講座・エクセル入門」の実施について、事務局から説明をお願いします。

○山本産業高校学務課長

報告第 53 号につきましては、産業高校市民公開講座「パソコン講座・エクセル入門」の実施についてでございます。

対象者は、市内在住者、在勤者で学生を除きます。日時につきましては、11 月 16 日から 27 日の間の 6 回で、時間は午後 6 時から 7 時 30 分の 1 時間 30 分で、産業高校で行います。また、定員は 20 名で、申込者が多数の場合には抽選を行い、費用は、教材費等で 2,500 円になります。講師は、産業高校の教諭になります。申込みと周知につきましては、まず 10 月の「広報きしわだ」に掲載して、往復はがきで 10 月 13 日必着で申し込みをしていただきます。内容につきましては、初心者向けの入門編でございます。

○中野委員長

以前、受講者年齢は 40 代後半から 70 代が多いと聞きました。また、人気があつていつも抽選になっていると聞いていますので、学習意欲があるのに抽選で漏れるのは気の毒なような気がしますので、定員を 25 名に増やすなどの検討はしていただけないでしょうか。

○山本産業高校学務課長

平成 26 年度は、申込みが 29 名で 9 名の方が抽選で漏れました。また、申込みに 70 代の方が 6 名いました。定員や回数を増やすなど、検討します。ただし、講師は先生方なので、忙しくて時間がとれるかどうかはあります。

○中野委員長

そこは調整していただいて検討をお願いします。

報告第 54 号 平成 27 年度 全国学力・学習状況調査の結果について

○中野委員長

報告第 54 号 平成 27 年度全国学力・学習状況調査の結果について、事務局から説明をお願いします。

○松村学校教育課長

報告第 54 号につきましては、平成 27 年度全国学力・学習状況調査の結果についてでございます。

平成 27 年度全国学力・学習状況調査の結果について、市民に対して説明責任を果たし、本年度の結果を踏まえて改善についてのポイントを明確にし、学力向上を推進するものでございます。

まず、小学校につきましては、昨年度改善の兆しを見せていましたが、国語・算数の AB 両区分におきまして全国との差が拡がり、改善という点ではかなり厳しい結果になりました。また、理科につきましては、前回の平成 24 年度より全国との差が拡がりました。

中学校につきましては、国語・数学のAB両区分におきまして改善が見られました。全国との差が縮小しております。理科につきましては、前回の平成24年度より全国との差が拡がり課題があると考えています。

平均正答率ですが、小学校では最小4.6ポイント、最大で8.5ポイント、中学校におきましては最小3.5ポイント、最大で5.5ポイントで全国と比較して下回っている状況でございます。

無解答率の全国との差につきまして、特に中学校では国語・数学のAB両区分及び理科の全てにおいて差が縮小し、改善が見られました。小学校におきましては、国語B区分の差は縮小しているものの、その他については差が拡大し改善が必要だと考えます。

続きまして、学習状況調査ですが、“授業における子供の主体的な学習活動”について、「自分の考えを発表する」、「話し合う活動をよく行っている」と回答した児童生徒の割合について全国との差が縮小し、改善傾向にあります。一方、“家庭で学習する児童生徒”の小学校で「家で学校の宿題をする」と回答した児童の割合が全国水準になりました。また、小中学校において「家で予習・復習をしている」と回答した児童生徒の割合は、依然として全国との差があるものの、改善傾向にあると考えております。“携帯電話やスマートフォンの利用率”について、「1日あたり2時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする」と回答した児童生徒の割合が、全国平均に比べて高く、課題がございます。

正答率の分布ですが、高位層の子供たちの部分が全国平均に比べて少ない傾向がございます。

全国との差をレーダーチャートで示して、分析結果も細かく示しています。特に国語におきましては小中学校とも“書くこと”に課題が見られ、今後も継続して指導していく必要があると考えております。また、AとBと問題が分かれています。主に活用力を図る“B”ですが、小中学校とも自分の考えや判断したことを自分の言葉で説明する、記述することに課題が見られています。

昨年来、項目として挙げています、“生活習慣や学習環境に関する調査の結果”を示しておりますが、「地域の行事に参加しているか」については全国平均を上回っています。中学校につきましては、いくつかの項目で伸びていっています。例えば、「自分にはよいところがある」、「学校のきまりを守っている」、「家で学校の復習をしている」、「学習内容がよく分かる」については改善されています。

改善策について、本市で行っている取組み、学校で行っている取組み、地域への働きかけについて記載させていただいております。その中でも「力だめしプリント」を新たに示しまして、具体的な活用を進めていきたいと考えております。

○谷口委員

報道によりますと、大阪府全体で中学校については改善傾向が見られるとあります。その分析ですが、結果を内申に反映することで子供が頑張ったと分析されている方が多いと思いますが、本市においてもそういうことが影響していると考えていますか。

○松村学校教育課長

本市において、これまでも中学校での取組みを頑張っていたが、この間改善傾向にございました。今回、無解答率も減っていることで、子供たちが学力テストに最後まで粘って、何とか答えようという意識が現れていたと思いますが、制度と今回の結果の因果関係につきましては、現段階ではまだ言えるところにはございません。事実として中学校の数値が上がっていることは間違いありません。

○谷口委員

昨年度の分析のときに、沖縄が上がった理由の分析で「補講をしたことがひとつの要因」と情報提供がありました。伸びている学校において、そのような取組みがありましたか。

○松村学校教育課長

今回伸びている学校について、細かい分析はできていませんが、中学校現場におきましても子供たちの学力の底上げをするということで、子供たちにきめ細かく指導していただいているのは事実としてあります。そのことと関連あるかどうか分かりませんが、調査結果の中でも「授業の予習をしている」、「自分にはよいところがある」などの自尊感情の向上や自信をもってやっていくこと、学習習慣の形成において改善してきているところが今回の結果につながっていると思います。今後、分析、研究していく必要はあると思います。

○谷口委員

無解答率が減っているのは素晴らしいことで、自尊感情が芽生えていることも素晴らしいことだと思います。

○川岸委員長職務代理者

小学校については、テスト慣れしていないのが原因のひとつと聞いたことがあります。今の中学校3年生は、小学校5年生の時に学力テストを受けていて、このようなテストを受けるのが3回目、テスト慣れから点数が上がったのではないかと保護者の意見がありました。

子供は、何故、去年と比較するのか、比べるのは自分の学力アップについてで、そこを比べてほしいと言っていました。保護者も新聞等で見て子供と話をすれば、子供はもっと勉強の方へ向き、保護者は学力向上に取り組めるのではないかと思います。

○松村学校教育課長

テスト慣れについて、記述式で何字までと条件が決められていまして、平常からそのようなテスト方式であるとか、授業で回答を求めていくことが十分かと言いますと、小学校では不十分どころがあるかもしれません。そこを少しでも補うということで府教委から「力だめしプリント」というものが出ていまして、学力テストと似通った設問がたくさんあります。こういうものの活用を進めながら、子供が学んだ知識、技能を上手く自分で活用して表現できるように慣れていってほしいという思いです。

○中野委員長

小学校について、昨年度、本市では前年度より全国平均正答率の差が縮まったということでした。以前の例があるので、油断しないように来年度に臨んでもらいたいと言いましたが、今回、

少しですが全国との差が広がりました。毎年上位にあります、秋田県や福井県では年度が変わっても、すなわち学年が変わってもいつも上位にいます。これは学校全体、県全体で指導体制が出来ていることを表しているように思います。学校全体として各教科の改善ポイントを挙げてもらっていますが、適切だと思います。改善策につきましても非常に細かいところまで気を配ってもらっていますので、これをしっかりと実施していただきたいと思います。改善策の中に“初任者専門指導員の配置”について、昨年度は2名でしたが人数に変わらないか。また、年々初任者が増えていますので、初任者や経験年数の少ない教員に対して、昨年、対象者全員を回ったのか、どの程度の割合で指導できたのか教えていただきたい。

中学校について、大阪府は全国平均との差が大きく縮まったということで、先ほどもありましたが内申への学力結果の反映が大きく影響したのではないかと指摘もあります。学力テストの内申への反映について、文部科学省は異議を唱えています。平成29年度については見通しが分かりませんので、この点では期待ができません。今年度も内申への反映だけでなく先生方の指導力向上があると思いますので、変わらずに指導力向上に努力してもらいたいと思います。ひとつ提案ですが、福井県の中学校で伝統的に、また全国的に注目されている方式で、教科の学年の縦割り指導、縦割り担当が行われています。つまり、ひとつの学年を何人かの先生で同じ教科を担当する方式です。先生の指導力の差による生徒への影響が、かなり少なくなると思います。非常に参考になるとと思いますので、いきなり導入は難しいと思いますが、縦割り方式のモデル校を設定して取組みを始めることをやってもらいたい。

次に理科ですが、抽出ではなく全員参加方式が初めて実施されました。小学校では大阪府は全国最下位、中学校では41位でした。本市は大阪府の成績を下回っているため、事態は深刻です。特に分析の中にもありますように、実験結果の分析など知識の活用力に問題があると指摘されています。以前の調査で、大阪府の中学校での理科の実験回数は、全国で最低という調査結果がありました。全国的に言われているのは、小学校の先生は理科嫌いが多い、ということをよく耳にします。本市の義務教育において、理科の実験回数や内容についての調査が今まで行われたのかどうか、行われていたらその結果を聞きたいし、未だであれば早急に取り組んでいただきたい。その結果に基づいての改善策を検討していただきたいと思います。全国的に小学校から中学校に進めば理科嫌いが増えると新聞に載っています。実験回数や内容の本市小学校、中学校での分析結果から小・中の連携を一層深める必要があると思います。さらに我が国は科学技術立国で、理科教育の重要性は言うまでもありません。実験の重要性をしっかりと学校現場へ伝えて実施してもらいたいと思います。

本市の結果分析から、小学校、中学校ともに改善ポイントが示されていて、さらにその改善策が示されています。その中の教育委員会の取組み“学校支援チームの設置”の教科担当の中に理科が含まれていません。今回の学力結果の内容を重視するのであれば、理科の先生は絶対に必要だと思いますので、改めていただくべきだと思います。

新聞の活用ですが、来年度7月の中学校の教科書採択に関連して、特に国語について担当の指導主事に“国語で生徒の主観を育てるには、どんな指導法がありますか”と尋ねると、「羽

生選手が冬期オリンピックで獲得した同じ内容の記事を2社の新聞記事を読み比べるのがいいと思います。」と答えてくれました。素晴らしい回答でした。文部科学省の調査分析でも、“新聞を読む児童・生徒は好成績である”、ことが分かっています。昨年も言いましたが、授業に新聞を活用する取組み、研究をもっと進めてもらいたいと思います。また、家庭に配布します保護者向けのリーフレットに“成績向上につながるので、家庭で新聞を読む習慣の確立をしてほしい”、と盛り込んでもらいたい。

○松村学校教育課長

新聞の活用ですが、リーフレットに新聞についての記載はひとつの方策であると思いますので、検討します。各校への指導助言の際にも新聞の読み比べであるとか、或いはどういう視点で書いたものであるか検討することは有効であると思いますので、それについても出来る限り進めてまいりたいと思います。

学校支援チームですが、今回の分析結果を考えますと理科を入れるべきかと思っております、出来る限りと考えております。

細かいデータにつきましては、後日でお願いします。

○樋口教育長

初任者専門指導員について、2名で活動していただいております。初任者が50人、60人いますが、全ての初任者に対して、指導助言、授業観察をしております。年に3回、授業を見て講評をしております。また、2年目の経験の少ない教員について、気になるような先生がいる場合、適宜、指導員が行って指導している状況です。

○中野委員長

改善策の教育委員会の取組み、学校の取組み、保護者・地域への働きかけについてきっちりやっていただきたい。

○野口委員

全国学力・学習状況調査は学力の一部を示すものだと思うので、これを高めることを目的化されなれないと思いますが、結果が上がっていることは岸和田市の子供たちの自信につながっていくと思いますので、そういう意味では真摯に取り組んでいかなければいけないと思います。中学校では伸びたが、小学校では課題が残った結果で、何故、中学校では伸びて、小学校では低迷したのかしっかりと分析していただき、小学校に対しての手立てを大切にしていっていただきたいと思っております。小学生の場合は、学習の楽しさ、学習への意欲が全体に底上げされれば、いろいろな根気強さが求められる学習に対しても子供たちは頑張っていけると思っております。子供たちが、“学習っておもしろい”、“もう一步頑張ってみよう”という気持ちを喚起するためにどのような手立てをしていけばよいか、人的に厳しい課題のある学校であれば、なかなかそこまで手を伸ばせない状況があると思いますが、その中で“やればできる”という気持ちにさせる丁寧な手立てを考えていただきたいと思っております。

○中野委員長

順位にとらわれる必要はないと思いますが、目安であることに間違いはありません。小学校、中学校、高校と身に付けてもらいたいのは、“生きる力”で、その定着を図ることが特に大事です。子供たちに“生きる力”が身に付いていないのであれば、教育委員会はもちろん学校、家庭、地域社会の全ての大人の責務で、定着に総力を挙げて取り組む必要があると思います。そういう方策を考えるのも教育委員会の仕事だと思います。

○谷口委員

生活習慣や学習環境に関する調査の結果で、昨年と割合が大きく異なる項目があります。例えば、“学校の決まりを守っている”項目の回答割合が、小学校で昨年は30%弱、全国も40%弱で、今年度は78.8%、91.1%となっています。統計の取り方が変わったのですか。

○松村学校教育課長

今年度は、「そう思う」、「どちらかというと思う」と答えた割合を示しています。昨年度は、「そう思う」のみの割合でした。

○中野委員長

子供たちに分かりやすくという要望もあり、それぞれに検討がされ、若干変わっていくこともあるかと思います。

報告第55号 平成27年度 岸和田市中学校総合体育大会について

○中野委員長

報告第55号 平成27年度岸和田市中学校総合体育大会について、事務局から説明をお願いします。

○松村学校教育課長

報告第55号につきましては、平成27年度岸和田市中学校総合体育大会についてでございます。平成27年8月7日から8月28日の期間で行われました中学校の総合体育大会の結果につきまして報告させていただきます。ソフトボールのみ、11月7日から8日に実施されるため成績は出ておりません。さまざまな場所に分かれて実施をしております。

○野口委員

全ては見に行けていませんが、バレーボールの決勝と柔道を見せていただき、真摯に子供たちが頑張っている姿を見て感動しました。

○中野委員長

剣道と野球を見せていただきました。熱い中、試合に集中していました。その姿から日ごろの先生方の指導の成果が表れて、熱心な指導が垣間見れました。事故がなく、大きな成果を上げることが出来たと思いますので、関係者の皆様に感謝申し上げます。

○川岸委員長職務代理者

子供たちだけでなく先生方の頑張りもあるので、たくさんの保護者にも見に行ってもらいたい。

報告第 56 号 ジュニア・リーダー養成研修会の実施について

○中野委員長

報告第 56 号 ジュニア・リーダー養成研修会の実施について、事務局から説明をお願いします。

○大和生涯学習課長

報告第 56 号につきましては、ジュニア・リーダー養成研修会の実施についてでございます。

例年実施をしております事業で、小学校 6 年生を対象にリーダーとして必要な基礎的知識、技術の習得を図り、キャンプファイヤー、飯盒炊さんなど、野外活動を通じ地域リーダー、こども会リーダーを育成しております。前期参加者は、8 月 9 日に研修生 27 名、新緑会 5 名、研修会につきましては 8 月 18 日から 20 日に奈良県の国立曽爾少年自然の家に行きました。参加者は、研修生 31 名、新緑会 9 名、引率職員 3 名でした。ホームページ掲載、市広報、各町のこども会等に参加依頼、市内 24 小学校へチラシ配布しました。今後、中期 11 月 15 日、後期 12 月 13 日に事前研修、12 月 25 日から 27 日に府立少年自然の家で実施をする予定です。

○谷口委員

指示待ちの子供が増えている中、リーダーを養成する研修は意義深いと思います。お願いですが、参加前に何を目的に参加をしたのか、参加後に何を得たのかを感想文でも良いので、書いてもらうことで参加した子供の成長にもなりますし、また今後のあり方にも参考になるのではないかと思いますので検討していただきたいと思います。

○中野委員長

将来、本市を背負っていくリーダーになる人材の育成です。参加費用ですが、子供のお小遣いだけでは難しい費用設定です。受益者負担もありますが、将来のリーダー育成ということで、補助金など検討していただけないかと思います。

報告第 57 号 教育キャンプの実施状況について

○中野委員長

報告第 57 号 教育キャンプの実施状況について、事務局から説明をお願いします。

○大和生涯学習課長

報告第 57 号につきましては、教育キャンプの実施状況についてでございます。

目的は、子供たちの野外活動・自然体験活動を推進するため、正しい野外活動と集団生活を学ぼうとする市内のこども会及び青少年育成団体の活動を支援するものです。期間は 7 月 18 日から 8 月 31 日の夏休み期間で、場所はいよやかなの郷キャンプ場です。内容は、いよやかなの郷での自主運営を基本に教育キャンプの申し込みにより、キャンプ指導者の派遣を行い、キャンプ用品の貸し出し等も実施しております。毎年、前年度の 10 月に市こ連の校区委員会にて利用者の抽選会を周知しております。

○中野委員長

教育キャンプをしっかりと実施していただいているのは、意義深いことだと思います。事故もな

く、実施していただいているのは関係者皆さんのご苦勞によるものだと思っております。去年より人数が増えていますが、去年は台風の関係で中止になったことが要因です。

報告第 58 号 平成 27 年度 市民プールの利用状況等について

○中野委員長

報告第 58 号 平成 27 年度市民プールの利用状況等について、事務局から説明をお願いします。

○直スポーツ振興課長

報告第 58 号につきましては、平成 27 年度市民プールの利用状況等についてでございます。

市民プール開設期間は、一番早いのが野田プールの 6 月 20 日からで、他は 6 月 25 日、7 月 1 日から、前半は学校や各種団体の専用使用、一般開放は 7 月 12 日にプレ、本格的な開放は 7 月 18 日からになります。一般開放の中止は雨天によるものです。専用使用につきましては、開放前半に雨の日が多く、入場者数は昨年度より減っております。料金のかかる入場者数は、前年と比べますとプールにより増減はあるものの、全体的は変わりありません。

○中野委員長

春木プールの専用利用者数が昨年と比べると、1,000 人減っていますが何故ですか。

○直スポーツ振興課長

小学校、中学校の学校水泳ですが、水泳の授業のときに雨天で中止になったものです。

報告第 59 号 平成 27 年度 初心者水泳教室の実施状況等について

○中野委員長

報告第 59 号 平成 27 年度初心者水泳教室の実施状況等について、事務局から説明をお願いします。

○直スポーツ振興課長

報告第 59 号につきましては、平成 27 年度初心者水泳教室の実施状況等についてでございます。

前期が 8 月 3 日から 11 日、後期が 8 月 17 日から 25 日に開催し、前期申込み者 320 名、後期 353 名で合計 673 名を対象に水泳教室を実施しました。クロールで 25 メートル泳げることを目的に、1 年生 5 名、2 年生 20 名、3 年生 45 名、4 年生 62 名合計 132 名が泳ぐことが出来ました。

○中野委員長

今年度、教育委員の希望でもありました 4 年生を初めて受け入れていただき、非常に喜んでおります。4 年生を受け入れることで今までの状況と何か変わるかと心配しましたが、事故もなく泳力の増進を図っていただき感謝申し上げます。4 年生の泳力は高いものがあると思います。この子供たちが、来年、水練学校へ進めばさらに期待できると思っております。

報告第 60 号 岸和田城次期展示について

○中野委員長

報告第 60 号 岸和田城次期展示について、事務局から説明をお願いします。

○小堀郷土資料室長

報告第 60 号につきましては、岸和田城次期展示についてでございます。

「岡部家ゆかりの古文書と書画―花押と官位の世界―」の企画展を平成 27 年 10 月 21 日から平成 28 年 3 月 13 日まで、岸和田城天守閣 2 階展示室で予定しています。企画展の主旨は、古文書というと一般的に読みにくく、親しみにくいという方もいますので、単に古文書の内容を読むだけでなく、いろいろな楽しみ方や見方から古文書に興味を持ってもらうよう考え、岸和田藩岡部家ゆかりの古文書を取り上げる中で、「花押」と「官位」に焦点を当てて古文書を見るという鑑賞方法を提唱することにしました。「花押」というのは日本古来からある自分と他者を区別するためのサインのようなもので、それを紹介していきたいと考えています。11 月「広報きしわだ」及びホームページで広報したいと考えております。

○中野委員長

古文書が読めると良いと思いますが、なかなか読めません。公民館活動の古文書を読むサークル活動の取組みと直接関係ないのですか。

○小堀郷土資料室長

直接は関係ないです。古文書講座を公民館で開催を考えていますが、未だ予定が立っていません。

報告第 61 号 図書館本館の臨時開館について

○中野委員長

報告第 61 号 図書館本館の臨時開館について、事務局から説明をお願いします。

○玉井図書館長

報告第 61 号につきましては、図書館本館の臨時開館についてでございます。

本年 9 月 22 日は国民の休日であり、図書館規則第 3 条第 1 項第 3 号の規定により、本来休館日になりますが、祭礼、秋分の日との関係で 5 連休となり利用者に不便をかけることから、同日を開館日とし利用者の利便を図ろうとするものでございます。8 月 26 日付で告示済みでございます。図書館だより 9 月号、ホームページ、図書館本館内掲示、図書館カレンダーで周知いたします。

○中野委員長

説明が終わりました。何かご質問等ございませんか。

予定していました報告は以上です。他に何かありませんか。

それでは、議案の審議に移ります。

議案第 52 号 補正予算について（事業費補正）

○中野委員長

議案第 52 号 補正予算（事業費補正）について、事務局から説明をお願いします。

○玉井図書館長

議案第 52 号につきましては、補正予算（事業費補正）についてでございます。

平成 27 年 8 月 14 日に図書購入のため 50 万円ご寄附いただきました。平成 27 年第 4 回定例市議会で歳入の指定寄付金へ 50 万円、歳出の図書館運営事業の図書購入費へ 50 万円の補正予算をしたいと思います。

○中野委員長

続けてご寄附いただき非常にありがたいことです。

○中野委員長

他にご意見等ございませんか。ないようですので本件について、原案のとおり承認します。

議案第 53 号 教職員人事について

○中野委員長

次の議案第 53 号は人事案件でございますので、非公開とさせていただきますがよろしいでしょうか。

○中野委員長

非公開への賛同がございましたので、そのようにさせていただきます。関係者以外は退席願います。

（教職員人事について審議され、承認された。）

○中野委員長

これもちまして本日の定例教育委員会会議を閉会します。

閉会 午後 2 時 45 分

本会議録に相違ないことを認め署名する。

委員長

署名委員